



# 郡山城外堀跡コース

郡山城は、天正13年(1585年)に豊臣秀長が、紀伊・和泉・大和の三ヶ国百万石の大守として本格的な城造りを行いました。秀長のあと、文禄4年(1595年)増田長盛が20万石で入城し、秋篠川の流れを奈良口で東へ付け替えし、元の川跡を外堀とし、西は丘陵の断崖に沿って点在する溜池を利用してつなぎ、北は谷や窪地に沿う堀を巡らし、堀の内側には「土居」という土壘を築いて松や竹を植え、城下町全体を取り巻く総堀りの普請を行い、全長50町13間(約5.5km)の外堀を完成させました。

城下町を取り巻いていた外堀も、水路化した所、溜池として残っている所、宅地等に転用された所等、むかしの面影はなくなっていますが、歴史的遺産である外堀跡を後世まで伝えるために外堀跡に石碑を建てたり、外堀緑地公園としての整備や、大雨の時、一時的に雨水を貯める特定保水池としての整備が行われています。

☆ 堀の幅員は、正保1年(1644年)に作成された「正保年間和州郡山城絵図」による。

## ① 広島下池（下池、上池） 堀の幅は、6間半(11.7m)～9間(16.2m)に及ぶ長いL型の堀。

秋篠川の付け替え工事により、元の川筋を堀として活用したもので、古くは、平城京の九条大路跡に当る。

☆お土居公園(おどえの松) 堀の土を内側に盛って「土手」を築いて松や竹が植えられた。

堀の内側に高く土盛をした土手を「お土居」と呼び、このあたりには大きな松の木がそびえていて、「おどえの松」と呼ばれ遠くからの目印となっていた。

## ② 広島浅池 広島下池・上池と続く堀で幅は7間(12.6m)

☆広島町 元和5年(1619年)に改易になった福島正則の浪人広島衆を、時の城主 松平忠明が召抱えて住ませたので広島町の名が付けられた。

## ③ 小川町裏池 幅は9間(16.2m)～10間(18m)、豊臣秀長の家老、小川下野守(3万5千石)の屋敷があったので小川町の名が今に残る。

## ④ 正願寺上池 堀の幅は7間(12.6m)西側に土居の竹やぶが残っている。平成17年度に洪水対策の一環として特定保水池整備事業が行われた。この事業は、歴史的文化遺産である郡山城の外堀跡を利用し、市民に憩いと潤いを与える、大雨の時には、一時的に貯水をして下流の市民の安全確保を目的としたもので、最大約1,800m<sup>3</sup>の水を貯めることができる。

## ⑤ 代官池(1) 堀の幅は8.5間(15.3m)あり、傾斜地なので中仕切りがある。

☆代官町 時の城主、本多政勝が武家屋敷を増設し、内13軒に代官を住ませたのでこの町名が付けられた。

## ⑥ 代官池(2) 平成14年度に蟹川流域の浸水対策の一環として特定保水池整備事業が行われ、最大貯水量は約4,400m<sup>3</sup>となる。

## ⑦ 鳴ヶ池(シギガイケ) 溝池を堀として利用したもので、南半分が埋め立てられて、土地改良区の事業所や地蔵堂が建てられている。地元の人はシンガイケと呼んでいる。

## ⑧ 番鐘池 溝池を堀として利用したが、現在は住宅地となっている。

## ⑨ 尼ヶ池下 番鐘池と尼ヶ池を結ぶ長大な堀で、西側の県道から見ると正面に春日山、左に若草山、右に高円山と続き、その前景に金魚池が広がり、抜群の眺めである。

⑩ 尼ヶ池 「大和大納言・秀長公が大織冠の社を遷し給う時、地形の用として土を取りしあとなり」と「郡山町旧記」にある。尼の悲しい伝説が伝えられている。

⑪ 蛇ヶ池尻 尼ヶ池と蛇ヶ池をつなぐ細長い堀、幅は5間(9m)で現在は竹などが繁っている。

⑫ 蛇ヶ池跡 貞享年間(1684～87年)の「郡山城絵図」によると東西43間、南北30間、周囲2町26間であった。池の周囲には梅が植えられていたが、昭和36～40年に埋め立てられ、住宅地となつた。池の底には、大蛇が出るのを防いだという大石があると言われてあり、蛇ヶ池伝説の元になっている。

⑬ 大職冠裏池跡 幅7間(12.6m)～13間(23.4m)の長い堀。ここは丘陵の断崖を利用した堀で、そこには大きな松の木が植えられていた。

⑭ 西矢田辻番所跡 町境の道路に木戸を設け番所を置いて警戒を厳重にしていた。城下町全体で10ヶ所の辻番所が置かれていた。

⑮ 箕山裏池跡(1) 殆ど住宅や駐車場になっている。

箕山裏池跡(2) 現在は病院の敷地である。少し東に高塚池があつた。

⑯ 箕山辻番所跡 町境の道路に木戸を設け番所を置いて警戒を厳重にしていた。城下町全体で10ヶ所の辻番所が置かれていた。

⑰ 矢田筋裏池跡 幅は7間半(13.5m)～8間(14.4m)で、昭和20年ごろに埋め立てられた。

⑱ 八幡堀池跡 郡山八幡神社の西側と南側をL型に囲み、幅は9間(16.2m)で南側の東端は柳町大門に接していた。神社の裏山に外堀跡の土居が残存している。

⑲ 柳町大門跡 南大和に通ずる高野街道への要所に当たるので、柳4丁目と5丁目の境に大門を設置して、外来者等に注意を払い、厳重な警戒体制を布いていた。門は、慶長年間(1596～1615年)に、伏見城の惣門を移築したものと伝えられている。大門の勤番は町民の責務で、この大門は柳1丁目から5丁目までと、堺町、豆腐町、車町の町民が交代で勤番することになっていた。

⑳ 洞泉寺裏池跡 幅は8間(14.4m)、現在スーパーの駐車場となっている。東の道路端に「洞泉寺裏濠跡」の大きな石碑が立つ。

㉑ 高田町大門跡 伊賀街道に通じる要所に当たり、大門を設けて厳重な警戒をした。

㉒ 常念寺裏堀跡 幅が7間(12.6m)あったが、現在は外堀緑地公園として整備された。

☆外堀緑地公園 長さ580m、郡山城外堀の一部を城下町にマッチする形で、築地塀を巡らし、四阿、廁を設置して市民の安らぎの場として整備された。北門に冠木門(太い2本の柱の上に横木を渡した木戸様式)、南門に高麗門(外堀に設けられた4箇所の大門のうちの柳町大門の様式)を配す。

㉓ 宮本上池 幅8間(14.4m)の堀で、現在は水路化している。

㉔ 高付上池 幅7間(12.6m)の堀で、当時の面影を最も残していて、菖蒲の咲く頃が美しい。

☆鍛冶町大門跡 京街道・奈良街道に通じる要所であるので大門が置かれた。東面して建つていて、東西の道路は平城京九条大路の跡である。